

大田区自立支援協議会 令和7・8年度 第9回地域生活部会議事録

文責：広瀬（事務局一部修正）

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 令和7・8年度 第9回地域生活部会			
(2) 開催日時	令和8年5月19日（火） 10:00～12:00			
(3) 開催場所	大田区立障がい者総合サポートセンター 集会室1・2			
(4) 出席した委員、事務局	伊藤 朋春	小松代 菜央	朴 沙羅	小野 英次郎
	藍 さとみ	渡邊 優美	青山 明子	平井 有希子
	広瀬 健次郎	金子 正	松浦 好美	
	今岡所長 区事務局：馬場 齋藤 中山 小西 鈴木			
(5) 内容・要旨	所長挨拶 協議会はそれぞれの立場の人がいて意見を出し合う場所である。来年度改訂される、おおた障がい施策推進プランの作成に向けて、地域生活支援拠点の機能や動向について協議していることは、重要な位置付けとなるため注目している。 1. 議題 (1) 事務連絡 ・ 出欠確認 ・ 名簿、スケジュール確認…6/16（火）は再調整する。 ・ 第6回運営会議報告 (2) 委員紹介 (3) 令和7年度振り返り、令和8年度の活動について ・ 部会長より。 令和7年度は大田区の地域生活支援拠点の各機能について検討をしてきた。地域生活支援拠点として国が求めていることは「親亡き後の支援」である。 ポイントとして①日中活動②居住の場の確保③後見の整備、が挙げられる。 第3回目の部会から大田区障害福祉課の前畑係長をオブザーバーに迎え、地域生活支援拠点事業の5つの機能である①相談支援②緊急時の対応③体験の場の確保④専門的な人材の確保育成⑤地域の体制作りについて、大田区としての取り組み状況について話してもらった。その後グループに分かれて課題、意見出しを行った。 話し合いの中で「情報が届かない人たちが一定数いると思われる。その人たちが情報を知り、活用していけるかが生活のしやすさのポイントとなる。情報が届かない、集めづらい人がセルフネグレクトのような状態につながっていく。」との意見が挙がった。 情報難民、自己放任している人に対して、どのように考え関わっていけるかを今年度のテーマとしていきたい。 提案として、東京医療保健大学東が丘看護学部の岸恵美子教授に、セルフネグレクトについて話をしてもらい、議題を深めていくのはどうか。 先生が出ているセルフネグレクトを特集したTVのニュース動画をYouTubeで視聴した。			

○ニュース動画を見た感想。

- ・背景や関係性等もあり、どう介入していけばいいか難しい。何から手を付けてよいのか？
- ・セルフネグレクトの背景はいろいろ、タイプもあるか？自分から SOS を出せる人、支援を拒否する人、様子の違いがある。
- ・引きこもりとなってしまうような人、どこかへ関わることへの難しさがある。身近な相談の場にどう周知していけるのか。
- ・QOL が低下しているという認識や改善できない理由があるのか？支援に対し、行政からの支援というイメージがあって拒むのか。軽度の知的障がい、精神障がいの割合が高いかと言えば、そうでもない。どうして社会とのつながりを絶つのかかわからない。
- ・支援の対応として、「本人の困り感のなさ」、「ゴミをゴミと認識していない」などの概念の違いがあると難しい。
- ・きっかけがあつてのことと思われる。重度の障がいがある人は関わる人が多いため、このような状況になりにくい。自分なりにできていると考えている人に関わりが持てるのか？
- ・家族以外の介入が難しい人が陥りやすいのかと思った。地域とのつながりを保っていくためにどうすればよいのか？
また、新規のサービスを入れることは気持ち的にハードルが高いという視点もある。
- ・仕事に疲れて片付けなくなることへの共感がある。誰もが持っていることと思う。困り感がない場合、困り感はあるが相談する場がない場合、受けたいけど頼りたくない場合等、どこまで介入していくのがよいのか。
- ・社会と繋がっていることが大切だと思う。ギリギリ頑張ってどうにもならなくなり SOS を出す人はまだよい。SOS が出ていない人への介入は難しい。その人の概念を変えることは難しい。命にかかわるかが介入のポイントではないかと思う。
- ・親が子どもを預けてホッとした時セルフネグレクトになり得るのではないかと感じた。

部会長…出された意見を集約すると、「どう介入するか・価値観的なこと（衛生的な概念、サービスを受けることへの拒否）・親もそうなるかも（誰にでもあること）」

大田区の対策はどうなっているのか？障がいに関わらずという面もあるが。障がいのある人がなりやすいのか。生活困窮の人などにも多いようなところがある。

6月以降に岸先生とも相談をして整理してきたい。

地域課題として拾い上げていったものを提案していけるとよい。

○先生に聞きたいこと

- ・「概念」の違い人への対応。変えることは難しい。再発してしまう心配はあるのか？
- ・ゴミ屋敷は表層の問題。社会的環境、背景の問題がある。
「メンタル的な問題や食べない、病院に行かない」など他人に迷惑をかけていない場合手出しできないのではないのか。
- ・心のケア、うつ的な症状を考えていく必要があるか。

	所長…伴走支援と連携について、セルフネグレクトにならないための支援について伴走していけることが基本と考えている。区に直接の担当部署は無いが、事例を話せる職員はいると思う。対応したその後についても話を聞きたい点でもある。家族を丸ごと支援という視点。保健衛生という点では、保健師の視点も入れられるとよいと思う。 次回の日程については、後日メールにて周知。
--	---